

平成 24 年 4 月 27 日
総 務 局

東京都防災会議「地震部会」（第 8 回）議事概要について

1 地震部会の概要

日 時：平成 24 年 4 月 18 日（水） 16：00～16：45

場 所：東京都庁第一本庁舎 9 階中央 G 会議室

出席者：平田、中林、翠川、久田の各委員

醍醐危機管理監、村松総合防災部長、箕輪企画調整担当部長ほか

2 議事概要

被害想定（案）の策定に当たり、各委員から下記のとおり発言があった。

<被害想定案について>

- 「PL 値とは何か」というような説明は記載されているのか。
- 「液状化危険度の指標」と記載はある。PL 値とは、液状化しやすい地層を深さ方向に立体化して、どの程度液状化するかを各層における地震動を加味した積分計算によって求めた値である。これによって液状化の程度を表現できるということである。
- 地盤の特性と揺れの強さを合わせて液状化の危険度となる。
- PL 値は同じ箇所でも地震動によって値が変わるため、同様のエリアでも震源モデル毎に液状化危険度は異なる、ということを都民に理解してもらう必要がある。
- 建物被害と人的被害のデータについてどの時点のデータを利用しているのかを教えてください。
- 建物データについては、平成 22 年 1 月 1 日の固定資産税台帳を利用している。
- 建物倒壊による人的被害については、平成 20 年のパーソントリップ調査のデータを利用している。
- その他、昼間・夜間人口を用いており、このデータは昼間人口が平成 17 年の、夜間人口が平成 22 年の国勢調査のデータを用いている。
- 建物被害については、区市町村別にみると前回調査とだいぶ変わっている。前回は、建物被害、火災被害を合わせると、下町の葛飾区、江戸川区、足立区がワースト 3 だったが、今回の想定では杉並区など山手側で被害が大きくなっている。これは、火災被害についてはクラスター方式を採用したため、クラスターの大きい部分で被害が大きくなるためである。山手側は幹線道路が少ない分クラスターが大きくなりやすい。

- 今回は下町の被害が小さくなったと見るべきか、それとも山手側の被害が大きくなったと見るべきなのか。
- 山手側の火災の危険度が高い、ということが明らかになったとみられるだろう。建物被害については、全体の被害量のシェアで考えた場合、山手側のシェアが高まったと言えるだろう。
- 焼失棟数の数字は、一つのメッシュに対する数値ということか。
- 250m メッシュ毎の数値ということになる。
- 250m メッシュは一辺 250m の正方形と考えてよいか。
- ほぼ一辺 250m と考えてよいが、厳密には正方形ではない。
- 建物棟数はもともと町丁目のデータがベースとなっており、そこからメッシュ毎の建物棟数を案分している。
- 本報告書（案）について委員の了承を得たということで、事務局案としてこの後の東京都防災会議の被害想定（案）として提出する。